令和5年度第1回釧路市まち・ひと・しごと創生推進会議　議事要旨

日時：令和5年 10 月 30 日（月）14 時 00 分～15 時 50 分
場所：釧路市役所防災庁舎5階災害対策本部室

1　開会

・「釧路市まち・ひと・しごと創生推進会議 設置要綱」第6条第2項の規定により、委員 10 名中7名出席につき、過半数の委員の出席があったため、当会議成立を確認。

2　市長あいさつ

3　議事　＜以下、質疑応答 【◎…議長　○…委員　●…オブザーバー　■…釧路市】＞

（1）第2期釧路市まち・ひと・しごと創生総合戦略の推進状況（推進交付金関連）等について

・事務局より「資料1　第2期釧路市まち・ひと・しごと創生総合戦略の全体像」、「資料2　基本目標ごとの施策の進捗状況」、「資料3　基本目標と基本的方向、具体的な施策」、「資料4　令和４年度地方創生推進交付金事業の実績」をもとに説明

（質疑応答）

○民間事業者が関わる KPI も多いと思うが、民間事業者が把握している情報で KPI に反映できるものがあるのではないか。集計の仕方として、同友会や商工会議所の情報をリサーチすることで、数字は増えると思うし、企業側としても KPI に貢献し、総合戦略に関わっているんだという実感が沸く。
また、国発信の総合戦略とはいえ市民の理解も必要であるため、企業や市民が自分たちも KPI の達成に寄与していると感じられるような見える化を検討してほしい。貢献している企業名を公表することで競争の促進にもつながる。

■釧路市内で多くの民間事業者に UIJ ターン等に取り組んでいただいてはいるが、全ての数字を拾えているわけではなく、行政で取り組んでいる事業の範疇での KPI の集計となっている。
現在は多岐にわたる KPI から分かりやすくイラストでまとめてはいるが、企業名の公表や市民を巻き込んでの見える化については、面白いアイディアだと思うので今後の評価方法の参考にさせていただきたい。

◎KPI の集計は市の事業に対しての評価となるので反映は難しいが、民間事業者等の頑張りの見せ方は検討の余地がある。

○長期滞在は全道1位というのは圧倒的なので、こういう部分をイラストではなく数字で分かりやすく見せることで、市民が自信をもって釧路の良い部分を発信できる。悪い部分についても隠さずに見せることも大事だと考える。

■光っている部分をより目立たせる工夫や、悪い部分についての情報発信の仕方は課題に感じている。良い取り組みについてはしっかりと伝えていき、釧路市の取り組み方を見えるようにしていきたい。

○例えば涼しい釧路を PR して長期滞在や移住を促進する際に、どれくらいのキャパシティを受け入れられる余力があるのか、事業者としても把握しておく必要がある。また、今来ている方々は、地域に対してどれくらいの経済効果があるのか、という点を把握することも重要だと思う。こういう切り口の考えも移住や UIJ ターンの促進には必要なのではないか。こういうものを組み込んでいただければ、創業に向けて動き出す人もいるのではないか。

■長期滞在の経済効果については、一度出したことはあるが、これについても情報発信の方法に工夫が必要だと考えるので関係課と共有していく。受け入れのキャパシティやどれくらいの需要があるのかを見定めるのは非常に重要だと考える。実際に調査すると、夏は来訪者が多く、冬は逆に数字が落ち込むので、キャパシティの出し方は苦慮している。ただ、キャパシティを示すことで新たなビジネスにつながる点もあると考えるので、担当課に共有していきたい。

○釧路市は面積に対する森林の割合は多いと思うので、今後は釧路市として脱炭素の取組みはどのように行っていくのか、基本目標の釧路の自然文化を生かした世界一級の観光地域づくりにも関係してくるので聞きたい。

■釧路市もゼロカーボンシティの宣言をしている。政策予算における重点取組み項目として設定し、森林の割合のみならず、ブルーカーボンに関する取り組みも全庁を挙げて検討をしている。具体的な取り組みとしては、家庭用のボイラーの買い替えなどのエコ補助の件数を拡大するなど、できる範囲でゼロカーボンを推し進めている。

○人口の社会減や若年層の釧路離れが進んでいる。ただ釧路に戻ってくるような取り組みだけでなく、釧路青年会議所で行っていたような子どもたちのシビックプライドや愛郷心を育む取り組みが重要だと思う。都会に出たとしても、釧路に戻ってきて働いてくれるよう、キャリア教育などに組み込めると若者釧路離れの歯止めにつながるのではないか。また、KPI は件数だけでなく、次につなげるために取り組みの評価も行う必要があるのではないか。

■ここ数年は若年層の転出超過の割合は少なくなってきた。地元企業への就職意欲や地元への愛着心も以前の総合計画を作成した際よりも上がっている。キャリア教育については、大人が道筋をつくってあげることが重要だと考える。釧路市には大学も高校も数多くあるので、連携して進めていきたい。

○自然体験をするようなイベントについて、興味があるような子は自ら進んで参加するが、それ以外の子にも釧路の自然環境を体験できるような機会を設けることができたら良い。

■実際に体験するのは大事な観点だと思うので、小中学生のうちから体験できるような機会を設けられるようすすめていきたい。

(2)デジタル田園都市国家構想総合戦略と釧路市次期総合戦略の策定について

・事務局より「資料5　デジタル田園都市国家構想総合戦略の全体像」、「資料6　第3期総合戦略の策定スケジュール(令和6年度予定)」をもとに説明

(質疑応答)

○国が掲げるデジタル田園構想の理想は素晴らしいなと思う反面、現実は厳しいだろうなと感じる。企業がやらなければならないことが多くあり、それを行政が支援するというのが理想の形だと思う。

近隣自治体の例だと、外からくる企業に補助を出して拠点を作る後押しをしている。地元の企業も大事だが、外から来た企業を補助し、それを成功事例として地元の企業に示すことができるとよい。総合戦略を見るだけでは何をすればいいのか分からないので、一企業でもこんなことが出来る、こんな働き方があるという事例をいくつか紹介し、それを実践しようとしている人を支援してほしい。

第3期の総合戦略について、釧路市は何で生きていくのか、何をメインでやっていくのかを明確に示しもらうと、企業としても釧路市の目指すものに合わせて動きやすくなる。もう少し具体的でわかりやすい目標やキーワードを掲げてもらえると、企業としても釧路市が進めているこの分野に力を入れると収益も上がるし、価値を生み出せるんだという指針になる。

■第3期の総合戦略のデジタルの部分は非常に焦点を絞りづらいのが課題である。まずは国の動きとして、全国の行政システムの標準化という動きがある。既存のシステムを変更していくだけでも莫大な経費がかかる。これに加えて新たなものに着手となると厳しいところがあると懸念している。

また、合計特殊出生率も低下傾向にある中で、自治体としては人口を増やすというよりは、人口が減少していく中で、釧路市は何を光らせていくかという視点で第3期の総合戦略は考えていきたい。他都市の事例なども参考としながら釧路市の今後の方向性を探っていきたい。

○デジタルが先行してしまうと人が付いていかない。人がデジタルを使って便利だという実感があれば加速的に伸びていくものだとは思う。出来上がってからこれでやりましょうとなると多くの人はデジタルだからできないとなってしまうので、デジタルの部分とこれまでのまち・ひと・しごとのミックスを目指していくべき。デジタルだけで仕事ができるというのもありだとは思うが、地方都市においてそれはよいのかどうかは疑問がある。地方都市だからこその人とのつながりも大事にしていくべき。また、総合戦略の名称は釧路市民が分かりやすいものにしていただきたい。デジタルで市民の生活が良くなっていくんだなと分かるような名称にしていただきたい。

自社でお金をかけて構築したシステムから、国のシステムに合わせるように突然言われても厳しい部分がある。国とのつながりはどうしてもやらなければならないのであれば、釧路市としてどういう企業支援をしていくのかも重要なのではないか。またデジタルの力を借りると、違う業種の方々とのつながりを持てるので、このような良さを生かしつつ、冷たいデジタルではなく広がりのあるデジタルを目指していただきたい。今後参画いただくデジタルの担当部局の方には、今までの総合戦略の考え方とデジタルのベストミックスを目指していただきたい。

■ただ単に機械を導入しただけではデジタルでも DX でもないので、デジタルを活用してどのように変化していくか議論していくことが重要である。釧路市の場合、製造業が多いので生産力としてのデジタルもあるし、繋がりを広げる多角化的なデジタルもあるので、これは切り分けて考えていかなければならない。地域全体がまだデジタル化されていない中で、市の特色ある事業や産業において、デジタル化を進めていくには、各業界と情報共有を

していかなければならないと考えている。事業継承をしていく仕組みなどにもデジタルを活用していければと考えている。

〇釧路市の未来をどうしていくのかというのが、まち・ひと・しごと創生総合戦略であり、デジタル田園都市国家構想総合戦略のデジタルは、KPI をいかに達成するかのツールでしかないと思う。釧路ならではの課題をどのように解決していくか、デジタルを実装することでより KPI を達成できるのではないかという視点で見ていくと目的感が分かりやすいのではないか。総合戦略をいかにつくるかというよりは、本来のまち・ひち・しごと創生総合戦略を、いかにデジタルで達成していくかという考え方の方が理にかなっていると考える。

■元々のまち・ひと・しごと創生総合戦略は、人口減少をいかに食い止めていくかというもの。東京一極集中から地方への分散はなかなかうまくいかないので、デジタルという言葉を使っているが、本来の目的は人口の増加や人口減少の緩和である。

〇すごく壮大な計画であり、魅力的な釧路を作るにはどこから手を付けるべきなのか悩ましい。デジタルという言葉を身近に感じる機会が少ないので、資料を見ても結婚や出産の希望を叶えるということとデジタルがどのように結びつくのか等、分からない部分が多く、勉強が必要だと感じた。
また、資料4の中で SNS の反応が令和4年で増加している要因や、どのコンテンツが伸びているのか確認したい。

■この事業は令和4年度からインフルエンサーを起用していることもあり、数字が伸びている要因にもなっているが、詳細については確認の上連絡する。

〇資料4について、音別のおんぽーとの特産品販売の売上額は、ふき紙関連の数字なのか確認したい。同じく資料4のくしろ地域産食材を使用したメニュー開発について、指標値を超えているが、メニュー開発後の広がりがあまりないように感じる。開発して終了ではなく、活用方法も検討してほしい。
子どもの体験について、高校生と大学生を対象に実施した物流体験会のアンケート結果を見ると、実際に見ることで初めて分かったという意見が多かった。実体験出来るような取り組みを考えていただきたいが、関係者に相談すると、学年単位や学校単位と実施のハードルが高い。長期休みに希望者だけを対象に実施するなども検討していただきたい。子どものちょっとした興味を、すごいなと感じるところまで引き上げるには実体験が必要だと考える。
ゼロカーボンについて、釧路市も港湾計画の改訂に着手していると思うが、カーボンニュートラルポートの計画に関しては、道内の他の重要港湾に後れを取っており、ゼロカーボンの分野が少し弱いのではないか。あと数年でゼロカーボンに注力していない企業とは取引しないという状況になるとも言われているので、市としてゼロカーボンに貢献している釧路の企業を認定して、商売を後押しするくらいの姿勢で取り組んでいただきたい。

■音別の特産品については、ふき紙の他にふきの水煮などを合計した数字となっている。分野ごとに集計すべきであったと思う。
ゼロカーボンについては、釧路市の CO_2 排出量の6割は電気使用によるものだと分かっている。電気の使用量を削減することが大きな課題となってくるが、個人での削減には限界がある。釧路には吸収源があるので、湿原と

の共生も含め、市全体で検討をしていく。
くしろ地域産食材のメニュー開発については、都心部でのプロモーションに活用されているが、地元にはフィードバックされていない部分がある。地元の方々への周知や、メニュー開発後の活用については検討していきたい。

●北海道としても総合計画の見直しを進めており、これに合わせて総合戦略や人口ビジョンの改訂を行う。出生率の低下や女性の転出、札幌一極集中など、課題の分析を行いながら次期戦略の方向性を定めていく。北海道では、釧路根室地域の連携地域別政策展開方針というものも作成しており、こちらも併せて改訂していくことになっているので、釧路市と意見交換をしながら進めていきたいと考えている。

４ 閉会

（了）